

9・3 開幕 東京ドーム

19:00 KICK OFF

【試合のみどころ】

【DEFENSE】フェニックスは、エースQBに背番号10を与えます。現在HPで確認する限りこの番号をつけている選手はいません。数名でプレイごとに交代するのか？ しっかりエースを立ててくるのか。グリフィンズディフェンス陣がどのようなシチュエーションでもアジャストし、ロングパス、ロングゲインを阻止し、インターセプトなどでモメンタムを掴むことが勝利への一歩。果敢にボールにアタックすることがポイント

【OFFENCE】#6森川竜偉選手ははじめとするバックス陣が長短問わずランをだすことで、#1QB吉田拓郎選手から#10羽深素選手をはじめとするレシーバー陣へのパスが通るように。OL,FB,TEの多彩なブロックが要【タイムコントロール】シチュエーションごとにどれだけ上手く時間を使えるか。勝負の最大のポイント

学生時代。極々限られた強者だけが立てた東京ドーム。
幸運にもシーズン初戦の地となりました。

対戦相手は日大フェニックス。甲子園ボウル優勝21回、ライスボウル優勝4回。

日本学生学生フットボール界の雄。

2018年5月6日に開催された日大・関学定期戦において発生した反則タックル問

題は日々報道され、4年を経た今も記憶に新しいと思います。

いま日大のホームページには、過去の記録、歴史など一切掲載されていません。

新しくその一歩を、しっかりあゆみ始めているように見えてなりません。

「母校で指導ができるのは本当に幸せです」。そうおっしゃった新監督・中村敏英氏。日大卒業後、オンワードオックス、リクルートシーガルズをへて、近年では関西

大学のオフェンスコーディネーターなどをされた、プロコーチ経験者。脇を固める

コーチ陣もフェニックスOBでライスボウル経験者が。

【誰もが認める日本一】のスローガンのもと、虎視眈々とその名の不死鳥のように、日本一奪還を狙い、グリフィンズに立ち向かってきます。

2022春。グリフィンズは、余裕すら感じる試合展開で勝利。

多くのチームが、「オトナ」が関わり戦略、戦術を考え、チームビルディングにも関わ

る中、学生主体という、稀有な存在で「なにをやってくるか想像がつかない」と他のチームのコーチに言わしめる。アメフトというスポーツにおいては時代遅れで、勝負ざわで、なかなかうまくいかないことも。しかしフィールドの中、外で、個々が躍動感に溢れ、雄ゆうと敵に向かい勝利を収める姿は、唯一無二のチームカラー。

東京ドームという大舞台で浮足だつことなく、
フェニックスの戦略、戦術にグリフィンズらしく
どこまでクールに立ち向かうか。

いざ出陣

東京ドームで開催するのは、1995年の関東大学選手権決勝（法政大学58-0専修大学）以来27年ぶりで、1部リーグのリーグ戦に限ると1992年以来30年ぶりとなります。（KFCFA・HPより抜粋<http://www.kcfa.jp/information/detail/id=6007>）